

授業科目名	公衆衛生学		担当教員		科目ナンバリング
必修	開講年次：2年後期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		NB249

【授業概要】

公衆衛生は人文社会科学と自然科学からなる極めて集学的な学問である。本科目では、公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について理解する。さらに、集団レベルでの健康事象の把握方法の基礎を知り、環境要因や生活習慣が健康にもたらす影響とその対策を学修する。

【達成目標】

人は誕生後、健康を損ねる様々な要因に曝される。自然要因として、地球上に存在する物理化学因子や微生物因子や、集団の間での社会的因子の影響を常に受ける。出生から死に至るまでの間に受けるこれら環境要因の作用について、その概略を理解することを第一の目的とする。次に健康の維持向上を図る上で最も効果的な方法を考える姿勢を身に着けることを目指す。健康維持の向上の最良の方法は予防であり、予防医学の実際を意識する姿勢を身に着けることを最終目的とする。

具体的には、人口学・環境衛生学・社会学・社会医学分野を総合した現代公衆衛生学の理解を目指す。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 公衆衛生の歴史 衛生学(Hygiene)と公衆衛生学(Public Health)
- [02] 人口学と公衆衛生 人口を左右する要因
- [03] 寿命 ヒトは何歳まで生きることができるか 寿命に影響する要因
- [04] 環境衛生学が示すこと① 宇宙の成り立ち・地球環境の基本・大規模災害・環境破壊・感染症パンデミック
- [05] 環境衛生学が示すこと② 宇宙の成り立ち・地球環境の基本・大規模災害・環境破壊・感染症パンデミック
- [06] 少子高齢化の実態① ヒト生殖能力の変化・生活習慣病・加齢と健康・難病・遺伝子治療
- [07] 少子高齢化の実態② ヒト生殖能力の変化・生活習慣病・加齢と健康・難病・遺伝子治療
- [08] 健康を守る制度 厚生労働制度 国際貢献

【教科書】

国民衛生の動向2021/2022 厚生労働統計協会

【参考書】

随時資料を提供する。

【評価方法・評価基準】

小テストを毎回実施する(40%)。期末試験(60%)。

【講義のために必要な事前・事後学習】

インターネットによる情報収集・選別を習慣とする姿勢を求める。方法について習熟し、質の高い情報とその活用を絶えず考える姿勢を身に着ける。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

タイムリーな公衆衛生的トピックを毎回示し解説を加えるが、取り上げたテーマについて自発的な情報の収集と分析を求め教員と学生の間でディスカッションを行う。

【備考】

特になし